

平成30年度第1回山縣市公共交通会議 議事録

日 時 平成30年6月26日(火) 午前10時00分～

場 所 山縣市役所 3階 大会議室

会長あいさつ

○宇野会長：本日の会議は、報告事項1件、協議事項3件、その他1件となっています。今年度は、特にその他で説明する実証実験を進めていきたいと考えており、これはバスターミナルの完成時に交通体系を一新するために行うものです。実験路線の中の岐阜大学病院路線については、山州市内から岐阜市内の高校への通学のために長良や忠節で乗り換えている学生の利便性が高まると考えています。

高富インターチェンジと同時にバスターミナルを開設し、駅のない山州市の表玄関としていきたいと考えています。

報告事項1 前回からの経過報告

○事務局：(資料1の説明)

- ・山州市地域公共交通網形成計画について
- ・第3者評価委員会での評価について
- ・本市自主運行バス全線を対象に含めた岐阜乗合自動車(株)作成「土日祝日限定ワンデーフリー乗車券」の利用状況について
- ・平成30年度山州市公共交通網形成計画推進事業業務について

協議事項1 平成29年度決算について

○事務局：(資料2の説明)

○大野監査：証拠書類を確認したところ適正に処理されたことを確認しました。

○宇野会長：この件について、承認してよろしいか？

○委員：(異議なし)

協議事項2 平成30年度予算について

○事務局：(資料3の説明)

○宇野会長：この件について、承認してよろしいか？

○委員：(異議なし)

協議事項3 地域内フィーダー系統確保維持計画(案)について

○事務局：(資料4の説明)

○鈴木委員(岐阜運輸支局)：この計画は、国へ提出し認可を受けることで、補助を受給するためのものです。網形成計画から対象となる路線の記載を抜き出して作成されていますが、「1. 目的・必要性」や「2. 定量的な目標・効果」で修正が必要です。事務局と相談し修正を行うため、原案から修正が入ることを踏まえて、承認いただければと思います。

○宇野会長：この件について、事務局が支局と修正を行い提出するとしてよろしいか？

○委員：(異議なし)

その他1 実証実験について

○事務局：(資料5の説明)

○鈴木委員(岐阜運輸支局)：岐阜大学病院路線について、学生の利用を想定するとそれなりの人数の利用が見込まれると思いますが、使用する車両は何を想定していますか。

また美山地域デマンド型交通で、既存のバス停へ停車して乗降を行うとありましたが、道路運送法上問題はありますか。

○事務局：美山地域デマンド型交通も岐阜大学病院路線も、本日の資料で提示しているバス停の設置箇所などはあくまで事務局案です。今後、関係各所と調整を進めていきます。

使用車両については、市街地循環路線と美山地域デマンド型交通は10人乗りワゴン車2台を、岐阜大学病院路線はマイクロバス1台を想定しています。運行委託予定の社会福祉協議会には、大型2種免許を持つドライバーもいます。

○山田委員(老人クラブ連合会)：岐阜大学病院路線について、市役所から伊自良支所まで停車しないとのことですが、梅原小学校あたりで止まってもよいのではな

いでしょうか。実際に大学病院に通院している方もいらっしゃいます。

○事務局：岐阜大学病院路線の停車箇所については、事務局でも懸念があります。利用が見込めるのであれば、停留所の追加を検討します。

また、地域の実情をより詳細に把握するため、民生委員にも意見を聞きたいと考えています。

○宮地委員（高富タクシー）：美山地域デマンド型交通は、現在運行中の乾デマンドタクシーと運行エリアが重複しています。予約などの際に利用者が混乱する可能性があるため、十分な周知が必要です。

○事務局：今回の実証実験は 1 か月間のみのため、実験中も乾デマンドタクシーは運行を継続していただきます。混乱が生じないように、地元とは十分に調整を行う予定です。今後本格運行を検討していく場合は、他の交通事業者とも協議を詰めていきます。

○秋山副会長：実証実験の全路線が無料という認識でよいでしょうか。

また、今回の実証実験は、将来の需要規模の見極めよりも、公共交通の周知や利用促進を図るイベント的な面が強いと考えてよいでしょうか。

○事務局：今年度の実証実験は、潜在需要の掘り起こしがメインであり、従来使っていない人の利用促進を図りたいと考えています。来年度は、今年度の結果をもとに、路線の本格運行実現に向けて、需要を見極めるための実験としたいと考えています。

○秋山副会長：市街地循環路線について、路線のパターンが多く、市民には理解しづらいと思われれます。もっとわかりやすい周知が必要です。

○事務局：今回提示した資料はたたき案です。運行の詳細が決定し啓発活動を行う際は、分かりやすい資料を作成します。

○宇野会長：実証実験は今年の公共交通施策の目玉です。市民や利用者などからも意見を十分に聞いて実施していきたいと考えています。そして来年度の実証実験、バスターミナルを拠点とした本格運行へとつなげていきます。

○秋山副会長：網形成計画には様々なことが記載されていますが、バスの問題は実際に運行してみなければ分からない部分が多々あります。そのため、今年度計画している実証実験を行い、その結果によっては網形成計画の見直しも検討してい

ます。

実験やそれに関わる意見をみんなで出し合い、市民がつくる公共交通を目指していただきたいです。

以上